



FUKUOKA SHIME BRAND

博多曲物 玉樹

Hakata Magemono Tamaki

柴田玉樹



まっすぐ伸びた木目。素木そのもののつややかさ。使うほどに手になじむやわらかなぬくもり。

福岡県知事指定
特産民・工芸品に
指定されています。



400年の技で新たな息吹を与える。素木が生み出す美しさ。

素木が持つそのものの美しさ、やわらかな肌ざわりと木のぬくもり。使うほどに手になじみほっとした安心感を与えてくれる博多曲物。福岡県馬出に暖簾をかまえてから400年。現在は、福岡空港にほど近い志免町に作業場をうつしながらも志、技を当時のまま守り続けているのは、当代で十八代目となる柴田玉樹(本名・真理子)。杉や檜の柁目の薄板を、熱湯で煮て柔らかくして曲げ、乾燥させて板の皮で綴じ、底板をつける。曲物の基本的な工程だ。言葉で著すと単純に見えるが、その一連の工程には、長年木と向き合っていないとわからない木の美しさを見つける熟練の目とカタチにする確かな技術が必要だ。木目を見ることができるようになるだけで十年は必要となる職人の道、決して木に逆らわず素木が持つ本来の美しさをひきだす。幼い頃から杉や檜の香りがする作業場で遊び、作業を手伝ってきた経験、そして脈々と受け継がれてきた400年の歴史がなせる技である。

曲物の歴史は古く、そのはじめは諸説あるが古墳時代にはすでにその製法が確立されていたといわれる。自然の木をつかった素朴さとしつかりとした機能性、生活必需品として古くから多くの人に親しまれてきた曲物も工業化とともにめっきり影を潜めてしまった。無機質なモノが増えてしまっている今だからこそ、曲物のもつしなやかな美しさ、使うほどに手になじむ愛着、そして木のやわらかなあたたかみが伝統工芸品という枠を超え、「新しい伝統品」としてひとときわ輝きをはなつ。これからも変わることなく続く木との対話は、時代によって色あせない奥深いものである。

FUKUOKA SHIME BRAND

用途を気にせず自由に
使ってもらいたいですね。
時代にあった新しい曲物も
どんどんつくっていきたいです。



柴田家18代

柴田 玉樹(本名・真理子)



煮ることで柔らかくなつた側板を巻木に素早く巻きつけ、木を素直に曲げていく。

のですが、男も女も関係ない、商品を見て判断してくださいと答えています。

はじめは見よう見真似だったんです。400年以上続く曲物師の家で生まれ、幼い頃から作業場が遊び場。「女は嫁に行くまで手伝うもの」という父の言葉通り小学生の頃から掃除や簡単な作業、18歳で母を亡くしてからは父の傍らで曲物づくり、絵付けの仕事も任せられるようになりました。好きも嫌いもなく、見よう見真似で手伝う。私に継がせる気がなかった父が唯一教えてくれたのは木の表裏の見分け方だけだったんですよ。ですから父の作業を目で盗み、数をこなすことで曲物師としての腕を磨いていきました。女性なのに曲物をつくれるのですか。ということもよく言われる



縫針で孔をあけ、桜の皮で丁寧に綴っていく。

最近、幼稚園から弁当箱の注文を受けたんです。小さなころから「本物」に触れさせたいからという思いは曲物師として本當にうれしかったですね。今の時代、お櫃を新たに使うともらおうという気持ちはあまり強くないんです。木のあたたかみが好きだとか、木目がきれいである使用して気持ちがいいとか使ってもらう理由はそんなちよとしたことでよくて用途はあまり気にしてないんですよ。好きで使ってもらえるのが一番嬉しいですからね。だからこそ、時代にあった新しい曲物、愛着を持って自由に使ってもらえる曲物をどんどんと創っていきたいんです。



しなやかに曲がった側板を木枠ではさみ、4~5日間、日陰で乾燥させる。



曲物用の物差し。つくるものごとに寸法が細かく記されている。



茶の湯道具 4,000円~
弁当箱・お櫃など日用品 2,000円~
三方・柄杓など 1,000円~

商品によって価格が異なりますので、お気軽にご相談ください。
オリジナルの曲物も別途注文承ります。

店舗情報



博多曲物 玉樹
TEL.092-935-5056
福岡県糟屋郡志免町別府西2-2-16

茶の湯道具、三宝、神器など格式高いものやお櫃、弁当箱、1輪差しなど日用品として親しんでいただける曲物一つずつ丁寧に作りあげる。結婚式の引出物やご贈答品にも時代に即した新しい曲物にも積極的に取り組んでおります。